

JICA 日系社会シニアボランティアの小澤道子です。アルゼンチンからお便りします。

今回はアルゼンチンの宗教についてお話します。といっても宗教論議ではありません。

アルゼンチンは圧倒的にキリスト教です。仏教寺院はもちろんですが、世界中どこへいっても遭遇するイスラム教の寺院も見かけませんでしたことはありません。そして、なぜか、キリスト像ではなく、マリア像です。マリア様は白人だったり、浅黒い顔立ちのインディオだったりします。そして、どのマリア様も大変美しいドレスを身にまとっています。日本から垣間見ていた欧米のマリア様とはだいぶ様相が異なります。

ここサルタで『カテドラル』と呼ばれ、人々から特に愛されている教会では、毎年9月15日になると『ミラグロ』という巡礼祭が行われます。周辺地域からたくさんの方が集まります。どのホテルも満員となり、観光客で溢れかえります。アンデスの山あいの町から、音楽隊を乗せた車を先頭に、4日も5日も歩いて来るそうです。音楽隊が道中、歩いている人々を『がんばれ！がんばれ！』と励ますのでしょう。



ミラグロの起源：

1600年代、この地域に大きな地震が続きました。そんなとき、ある牧師がこのカテドラルのマリア様とキリスト様の像を表に出して巡礼しました。そのとたん地震が治まりました。それ以降、この教会に祈願に来る人が後を絶ちません。



ところで、私たち夫婦は休みになると、近くのベオナルド山にハイキングに行きます。ハイキングコースの途中、まるで道祖神のような祠が12か所あり、キリストの十字架処刑の絵が描かれています。ハアハア言いながら山道を登り、『ああ、この絵は何合目だ』などと思いながらも、キリスト教がアルゼンチンの人々の心に深く入り込んでいるのだと気づかされます。そして、山頂に到着するとサルタ市の素晴らしい眺望が目に入ります。ここでも、サルタの人々は持参したマテ茶を楽しんでいます。マテ茶はアルゼンチンの人々には欠かせない飲み物なんですね。



